

「令和6年能登半島地震における 支援関係者の関わり方と 受援のあり方」

日 時：令和6年6月27日（木）10:00～12:00

担当時間：11:00～12:00

場 所：群馬県庁昭和庁舎3階 第34会議室

担 当：群馬県社会福祉協議会

災害福祉支援センター 渡辺 匠海

はじめに

令和6年能登半島地震における派遣実績

- ・ R6.1.23～24 1.5次避難所（金沢市）におけるDWAT活動① ※
- ・ R6.1.27～30 1.5次避難所（金沢市）におけるDWAT活動②
- ・ R6.2.28～3.5 穴水町災害ボランティアセンターへの応援派遣① ※
- ・ R6.3.24～28 1.5次避難所（金沢市）におけるDWAT活動③
- ・ R6.4.16～22 穴水町災害ボランティアセンターへの応援派遣②
- ・ R6.5.2～8 穴水町災害ボランティアセンターへの応援派遣③

※DWATとは Disaster Welfare Assistance Teamの略で、
災害派遣福祉チームのことです。

※応援派遣とは、社会福祉協議会による災害派遣協定によるものです。

2. 災害ボランティアの心構えについて

特定非営利
活動法人

レスキューストックヤード



55号
2011年5月発行



画像

認定NPO法人レスキューストックヤード様
ホームページから引用

(<https://rsy-nagoya.com/volunteer/volknowledge.html>)

(認定NPO法人レスキューストックヤード様 ホームページ引用)
災害ボランティアとして被災地に入るにあたり、以下のようなことに注意しましょう！

食事・宿泊場所

基本的には、食事・宿泊場所は用意されません。自分自身で手配するようにしましょう。食費・宿泊費は自己負担になります。

交通手段

被災地に駆け付ける際の交通手段は自分で確保するようにしましょう。交通費は自己負担になります。緊急車輛や災害復旧作業の妨げにならないよう、極力マイカーでの乗り入れは控えましょう。

心構え

危険を予測する

必ずどんな危険があるか、自分なりに最大限に危険予測をして関わりましょう。

「がんばって」

被災者はすでに極限までがんばっています。この言葉は極力使わないようにしましょう。

笑顔を忘れない

ボランティアが無理して眉間にしわを寄せていたら、見てる方はもっと疲れるし、気をつかいます。笑顔がつかれなくなったら、どんなに仕事があると思っても被災地を出しましょう。でないと逆に迷惑になります。

「そうですね」

お話を聞く時は否定せず聞き続けましょう。心の苦しみを言葉に出すだけで気持ちが軽くなり、被災者の方のストレス軽減になります。

「いまどんな気持ちだろうか」

常に被災者の気持ちと状況を考えながら行動しましょう。

こども

子どもは親がぴりぴりしているの、大人よりもストレスを溜め込んでいる場合があります。子どもたちと思う存分遊び、話をたくさん聞き、ぎゅーっと抱きしめてあげましょう。

大きく物事を見る

一日のうちに必ず一步はなれたところから全体を客観的に見る時間を持ちましょう。

ボランティアは行政のように平等でなくていい

平等に拘りすぎると動けなくなります。不平等過ぎない範囲で臨機応変に活動しましょう。

3. 災害ボランティアセンターについて

①なぜ、社協が災害支援に関わるか？

②災害ボランティアセンター
(以下、災害VC) とは？

①. なぜ、社協が災害支援に関わるか？

(1) 社会福祉協議会が災害支援を行う意味

① 土地勘、地域性がわかる組織

→ **日本全国すべての都道府県・市町村に存在すること**

…被災地の地域特性を知っている社協が必ずある

…中長期的な被災者の支援

…被災者に寄り添い続けられるのは地元組織である

② 情報が容易に入ってくる組織

→ **民間の立場を活かした機動性・柔軟力**

…行政は一律・公平性が原則

③ 継続性が確保される組織

→ **社協の地域福祉推進のミッション**

…住み慣れた場所で、誰もが自分らしくいきいきと暮らせる
地域づくり

(2) 社会福祉協議会が災害支援を担う理由

- ① 災害支援の経験・ノウハウ等を蓄積
- ② 地域の生活課題を把握し、解決する役割
- ③ 社協の本来的機能として被災者の生活支援、被災地域の復興支援にあたる事が可能 ※災害VC閉所後も
- ④ 平時からのネットワーク組織として 住民の生活課題と向き合い、それを支えていく機能がある

「社協」の本来業務
→
につながる

★社会福祉協議会

社会 ⇒ 生活する『地域』
福祉 ⇒ 生活する人の『幸せ』
協議会 ⇒ 『話し合う』場や機会

②. 災害ボランティアセンターとは

(1) 災害VCの役割と使命

★社協にとっての災害支援とは…

もともとの**平時の生活課題**は災害時にも無くならない
さらに、災害によって「**新たな生活課題**」が発生



支えあい、助け合いが必要



「災害ボランティアセンター（災害VC）」という仕組み

※能登半島地震における写真ではありません。

地震直後の台所



ボランティア活動後



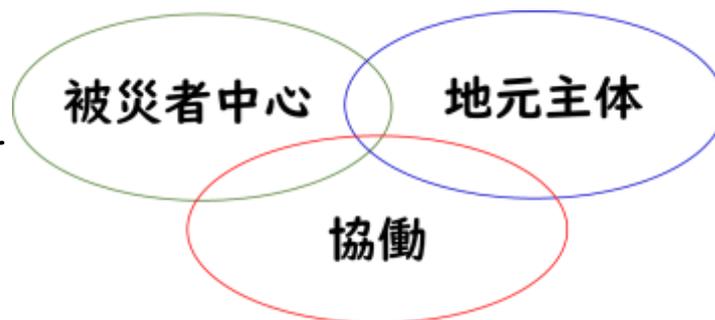
(2) 災害VCの目指すところ

災害VC

- ① 近隣住民の助け合いだけでは対応できない規模の災害時に、ボランティアの力を借りて、被災者支援や、復旧・復興に向けた地域・生活支援を行うことを目指しています。
- ② 被災された人々・地域が、災害によって変わってしまった、あるいは失われてしまった「その人・その地域らしい暮らし」を取り戻していくための支援を行うことを目的としています。

【災害VCの三原則】

近隣住民の助け合いが災害により機能しないところを、ボランティアの力を借りて、復旧・復興に向けて、被災者が自立・生活再建することを目指し、災害VCの三原則のもとで運営される。

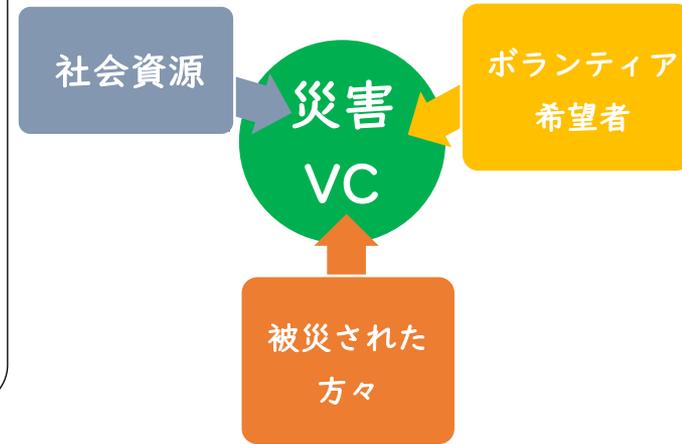


被災者の自立や生活再建

(3) 災害VCの機能と役割

◆機能

- ① ボランティア活動・コーディネート拠点
- ② 資金・資材の集積の場
- ③ 被災者の相談窓口
- ④ 支援プログラムの創造の場
- ⑤ 情報収集・発信の場



◆役割

- ① 被災者のニーズ把握
- ② ボランティアのコーディネート
- ③ 活動の安全管理
- ④ 資金、資機材等の調達、管理・運用
- ⑤ 中長期的な被災者支援と復興に向けたプランニング 他

被災者の困りごと

調整
(つなぐ)

災害ボランティア
活動希望者

(4) 被災地の様子



倒壊した家屋



自衛隊のお風呂



仮設住宅

(4) 被災地の様子



土砂崩れ



二階部分が崩れた家屋

(4) 被災地の様子



海沿いの被害



二階が落下した家屋



崩壊した家屋

(5) 災害VCの様子



受付窓口



オリエンテーション



ボランティアの送り出し

(5) 災害VCの様子



ニーズ受付

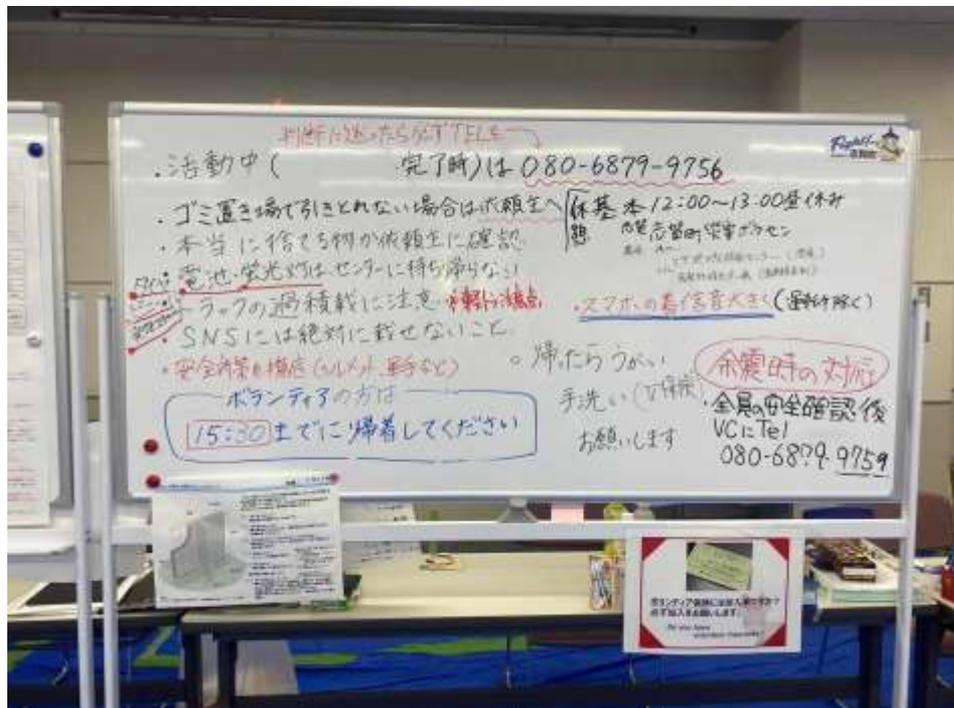


現地調査



ICTを活用したニーズ管理

(5) 災害VCの様子



オリエンテーション内容



仮設住宅入居者へ災害ボラセンの説明代行

(5) 災害VCの様子



車両管理



資機材管理

4. 受援について (被災地をみて思うこと)

①受援って難しい・・・

②任せる内容、任せ方、任せる人… etc.

①. 受援って難しい・・・

(1) 被災地になると業務がとにかく増える？

① 通常業務は優先順位を決めて継続実施

→どうしても止められない**業務は継続**する必要がある

…被災したら通常業務が全て免除されるわけではない。

② 通常業務は外部支援者には任せられない

→通常業務はこれまでのやり方、考え方に基づく

→**たった数日間しかいない外部支援者には**

到底できるものではない

…自分たちでやるしかない。どんどん追い詰められる。

③ 災害ボランティアセンターの運営実施

→支援してくれるボランティアが大勢くる

→被災者のニーズに応える支援が**毎日求められる**

…通常業務をしている時間がない。残業が増える。

①. 受援って難しい・・・

(2) 増えた業務をどう処理する？ 休みたい・・・

① 通常業務は地元社協がやるしかない
→ 簡単な事務作業であれば手伝えるが・・・

② 災害ボランティアセンターは手伝える
→ これまでの経験を活かして外部支援者が手伝える
…一方で、任せっきりにもしてられない。
…地元は「休みたい」と言い出せない。
…休んだら外部支援者からなんて思われるか不安。

③ 災害ボランティアセンターの運営実施
→ 支援してくれるボランティアが大勢くる
→ 被災者のニーズに応える支援が毎日求められる
…通常業務をしている時間がない。残業が増える。

②. 任せる内容、任せ方、任せる人… etc.

地元が安心して任せられるには・・・

『災害ボランティアセンターの三原則』が大切です。

①被災者中心

被災者に寄り添った活動、気持ちが大切です。

(地元社協の職員も実は被災者なのです…)

②地元主体

地元住民の方々、社協職員の方々の思い・考え方を尊重しましょう。

外部支援者はすぐに「いなくなる」存在です。大きな提案、多い提案をしても、外部支援者がいなくなった後、残された地元の被災者が大変になることも。

③協働

外部支援者だけでなく、地元の方々とも協働が必要です。最終的には地元で復興していくことになります。

5.さいごに

皆様のご理解、ご協力が必要です。

社協だけでは、有事の際には乗り切れません。

そっと寄り添いながら、
力を是非貸してください